

学校外の人材を活用したキャリア教育実践モデル

学年 3・4 教科・領域 総合 単元・題材等 人権・福祉

単元・題材等の目標 体験や人とのかかわりを通して、自分のよさに気づき、他者のよさを受け入れ、様々な年齢や立場の人たちの考え方・感じ方を学び、自分の生活とのかかわりを見つめたり、相手のことを考えた行動をしようとする。

○活用できる学校外の人材と内容等

障がい者・高齢者など

*来校してもらったり、施設などに行ったりして、交流や体験を通し、話をしてもらう。

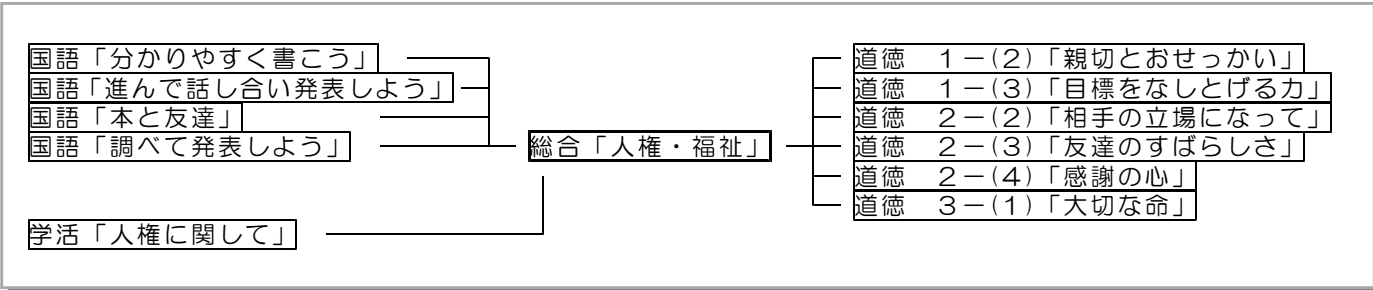
○キャリア教育の視点から本単元・題材等で育成することが期待される能力・態度

*太字は、学校外の人材活用により育成が期待できる能力・態度

b>

- ・障がい等がある人の立場を理解し、認め、励ます。【**自他の理解能力**】
- ・障がい等がある人の気持ちや考えを理解しようとする。【**コミュニケーション能力**】
- ・友達と協力して、調べ学習や活動に取り組む。【**コミュニケーション能力**】
- ・障がい等がある人の職業や生き方が分かる。【**情報収集・探索能力**】
- ・人それぞれの役割や役割分担の必要性があることが分かる。【**役割把握・認識能力**】
- ・計画づくりの必要性に気づき、学習計画を立て、学習や活動の手順が分かる。【**計画実行能力**】
- ・自分がやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。【**選択能力**】
- ・設定した学習課題を解決しようとする。【**課題解決能力**】

○キャリア教育の視点からの他教科・領域との関連



○学校外の人材を活用するポイント

本単元・題材に入る前に



- *障がい者や高齢者等との交流や体験を通して、何を学習するかを明確にしておきましょう。
- *障がい者や高齢者、施設等との連絡や打ち合わせを密にしておきましょう。

活用前の指導では



- *障がい者や高齢者等との接し方や留意事項等を指導しておきましょう。

活用時の指導では



- *活動中は、きちんと活動できているか、相手に迷惑をかけたか傷つけていないかなどに留意しましょう。

活用後の指導では



- *交流や体験を通して分かったこと、感じたことや考えたことなどをまとめ、交流しましょう。
- *地域や自分たちの課題を見付け、自分ができることを考え、実行していこうという意欲をもたせようしましょう。

○学校外の人材を活用する指導の流れ

活用前の指導

- ①課題を設定し、調査や交流、体験などの計画を立てよう
- ◆どんな学習をしたいかを考え、課題を設定し、調べたり交流したりする計画を立てる。

学習活動	指導上の配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ●自己の課題を設定する。【コミュニケーション能力】 ●課題に沿った交流や体験の内容、方法等を考え、話し合う。【課題解決能力】 【計画実行能力】 <p>実際に車椅子で歩道を通行してみたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●交流や体験時の注意事項について話し合い、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料等を提示し、どんな学習をしたいかを考え、自己の課題を設定させる。 ○課題の設定にあたっては、似たような課題をもった者同士でグループを構成することも考えられる。 ○どのような交流や体験を行えば課題に迫れるか、何を学べるかを考えさせ、話し合わせるにより、目的意識をはっきりとさせるようにする。 ○言葉遣いや接し方、注意することなどを考えさせ、事前指導をしっかりと行う。

- 評価の観点
- ・学習課題を設定し、障がい者や高齢者等との交流や体験のねらい、目的が分かる。
 - ・課題に沿った交流や体験の内容、方法等を考えることができる。

活用時の指導

- ②調査や交流、体験をしよう
- ◆計画に基づいて、調べたり、交流活動を行ったり、体験などを行ったりする。

学習活動	指導上の配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者や高齢者等との接し方や留意事項等について確認する。 ●障がい者や高齢者等から話を聞いたり、一緒に活動したり交流したりする。【自他の理解能力】 【コミュニケーション能力】 【情報収集・探索能力】 【役割把握・認識能力】 【計画実行能力】 【選択能力】 ●感想を発表し、あいさつをして終わりにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつや言葉遣い、態度など注意事項を確認させる。 ○交流の様子を確認し、適切な指導や助言を行っていく。 ○交流する中で、気付いたことや感じたことを心に留めておくようにさせる。 ○感想やお礼を言って終わりにさせる。 <p>実際に車椅子で移動してみてどうだった？</p>

- 評価の観点
- ・課題に沿った交流や体験活動に取り組んでいる。
 - ・交流や体験活動から、障がい等のある人の気持ちや生き方に気づき、理解できる。

活用後の指導

- ③調査や交流、体験等をまとめ、振り返ろう
- ◆個人やグループでまとめ、みんなに知らせ、自分ができることを実行しようとする。

学習活動	指導上の配慮事項
<ul style="list-style-type: none"> ●交流や体験を通して分かったこと、感じたことや考えたことなどをまとめる。 ●まとめたことを発表し合い、交流する。【コミュニケーション能力】 ●自分ができることを考え、実行していこうという意欲をもつ。【計画実行能力】 【選択能力】 <p>困っている人がいたら、進んで声を掛けたいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ方や表現方法を考えさせ、自分の考えを十分に表現してまとめていけるようにする。 ○発表会を校外で行ったり、地域の人に公開して行ったりするもよい。 ○交流や体験から学んだことを通して、何ができるかを身近なところから考えさせ、できることから実行しようとするのが大切だということに気付かせる。

- 評価の観点
- ・交流や体験を通して分かったことや感じたこと、考えたことなどをまとめることができる。
 - ・まとめたことを発表し合い、課題を見付け、自分（たち）ができることを考えることができる。